



報道で紹介された美瑛高校 02

◆(R6. 4. 25 びえい新聞)

美瑛高校が北海道教育委員会指定事業「MA+CHプロジェクト(地学協働まちづくり推進事業)」に指定されました。北海道14校、管内では美瑛高校のみです。地域協働が評価されたと考えています。これから3年間頑張りましょう!



道立美瑛高校に朗報。入学者数の減少で再編整備の対象となることを危惧した今津寛史道議の働きかけで、北海道教育委員会が2024年度から新たに取り組む「北海道MA+CHプロジェクト(地学協働まちづくり推進事業)」の指定校に美瑛高校が採択された。今津道議は「4月10日に道教育委員会の倉本博史教育長に存続の要望書を出した際、担当課がプロジェクトの内容について説明。その後、道教育庁から指定学の決定の連絡を受けた。3カ年のプロジェクトなのでひとまずは道立美瑛高の存続の道はできたのか

美瑛高校の存続に向け今津寛史道議が働きかけ 北海道MA+CHプロジェクトの指定校に決定

道立美瑛高校に朗報。入学者数の減少で再編整備の対象となることを危惧した今津寛史道議の働きかけで、北海道教育委員会が2024年度から新たに取り組む「北海道MA+CHプロジェクト(地学協働まちづくり推進事業)」の指定校に美瑛高校が採択された。今津道議は「4月10日に道教育委員会の倉本博史教育長に存続の要望書を出した際、担当課がプロジェクトの内容について説明。その後、道教育庁から指定学の決定の連絡を受けた。3カ年のプロジェクトなのでひとまずは道立美瑛高の存続の道はできたのか

など思う」と経緯を説明した。同プロジェクトは「地域と学校がともに学ぶ取り組みを通して、地域と学校が連携・協働する体制を構築し、持続可能なまちづくりに資する本道の未来を創る人材を育成する」を趣旨としており、指定校に「地学協働コーディネーター」を配置。地域の小中学校などで活躍する地域コーディネーターと連携・協働して、道立高校と地域が一体となった「地域学校協働活動」を進める。今津道議は「地域の課題解決や商品開発、地域活性化をはじめ幅広い分野で、美瑛高校と地域が協働した活動を進めていこうというもの。例えば農業や観光、防災などのドローンの利用を一緒に考えてみてほしい。小中学校の地域探求の授業が美瑛

など思う」と経緯を説明した。同プロジェクトは「地域と学校がともに学ぶ取り組みを通して、地域と学校が連携・協働する体制を構築し、持続可能なまちづくりに資する本道の未来を創る人材を育成する」を趣旨としており、指定校に「地学協働コーディネーター」を配置。地域の小中学校などで活躍する地域コーディネーターと連携・協働して、道立高校と地域が一体となった「地域学校協働活動」を進める。今津道議は「地域の課題解決や商品開発、地域活性化をはじめ幅広い分野で、美瑛高校と地域が協働した活動を進めていこうというもの。例えば農業や観光、防災などのドローンの利用を一緒に考えてみてほしい。小中学校の地域探求の授業が美瑛

高校に繋がっていけば、進学先の選択肢に入ってくる可能性も高まる」と可能性を口にする。また「地学協働コーディネーターは、町外ではなく地元で根付いている人が良いのではないかと提言。活動をコーディネーターする人材の重要性も加えた。これまでの経過を見る限りでは、コミュニティスクールメンバーも見直し、適切な人は残しながらプロジェクト

の趣旨に沿った形で再編成することが望ましいと考えられる。美瑛高校存続を口実に視察旅行へ繰り出す、または外部講師との懇親会の名目のもと酒宴を繰り広げる町議会議員達の余計な介入も不要。道立美瑛高校の存続の芽をつないだのは、多くの学校を回り入学を呼びかけた美瑛高校の教職員地道な努力と、今津道議の道教育委員会への働きか

けのたまもの。3年間の猶予を与えられたよい機会なのでこは一旦、これまでの体制をリセットし、美瑛高校の現場を重視した新しいチームでプロジェクトを構築していくことが有効なのではないか。町内には教育に長けた良識や見識の高い人材が数多くいるだけに、それらの人々の関りのもとにプロジェクトを推進、より魅力ある美瑛高校となるようお願いしたい。